



## 漂流物を除去し、美しい港を守る

公益社団法人 清水清港会

常務理事兼事務局長  
大橋徳治さん



ゴミ600m<sup>3</sup>、流木1500本  
を1年で収集

公益社団法人清水清港会の前身、社団法人清水清港会は昭和42年（1967）、港湾関係者20人が設立発起人となり、港湾管理者である静岡県から委託を受けて、清水港の海面清掃を行う目的で設立しました。

当時は公害が全国的に問題となっていました。そこで、清水港に河口を開く巴川の沿岸の企業経営者に工場廃水を巴川に流さないようにお願いするとともに、船上からタモを使って人海戦術で清水港の海面清掃を始めました。

近年は、水質は向上していますが、観光客が捨てたペットボトルや家庭ゴミが多くなり、1年間に一般ゴミ約500〜600m<sup>3</sup>と流木約1500本を収集しています。

平成24年には公益社団法人として知事の認可を受け、港湾を利用する会員企業73社の会費と静岡県からの委託事業費を財源として事業を行っています。

## 漂流物は入出港、漁撈活動、企業活動に悪影響

海上清掃船「ともえ丸」（6.6トン）は、胴体が2つに分かれていて、スタッフが両サイドに立って竿でゴミをかき集め、水流を送る装置で船の真ん中からゴミを吸い込み、胴体の途中のカゴにゴミを貯めて、水だけを後部に排出します。

ゴミが貯まると、富士見埠頭の元木皮焼却場に陸揚げし、産業廃棄物処理業者に処理をお願いします。

稼働日時は、月曜日から金曜日の8時30分から16時15分。年間で約243日です。船は清水マリンビルの近くから出発して折戸湾から興津まで各埠頭の周囲を巡回し、港を1周して1日の仕事を終えます。

大雨後は、巴川の河川敷で刈った草が固まりになって流れてきて、清水港内、折戸湾に貯まりやすいです。清水マリンパーク周辺は、警察や海上保安庁の船が待機し、エスパルスドリームフェリーさんの観光船のりば、ヨットハーバーがあり、入出港、漁撈活動、臨海部の企業活動に悪影響を及ぼすので、できる

だけ早く撤去する必要があります。台風の際は、J-R清水駅前の江尻埠頭、袖師埠頭、興津埠頭までゴミが入ります。こちら側には庵原川、興津川がありますので、ゴミの量が多く、1週間くらい埠頭が使えない状態になることもあります。

また、年度後半には、社会人から標語を募集し、約400作品の応募をいただいています。優秀な作品は、のぼり旗にして、清水港の周辺に掲示しています。最近は外国客船の寄港が増えたので、英語バージョンも製作して、外国人にPRしています。清掃船とトラックにも掲示しています。環境美化啓発事業は、静岡市から補助金をいただいて実施しています。

## 「美しい港を守る」標語コンクールで意識啓発

当会では、美化意識を広げていくことも使命と考え、年度前半に静岡市内の小中学校に依頼して、子どもたちを対象に「きれいな川と海、美しい港を守る」標語を募集しています。短い文章をつくることで、子どもの時から清水港の美化に関心をもっていたらこうという考えです。毎年1000作品を超える応募をいただいております。7月の「海の日」式典で表彰式を開催しています。



小型トラックによる清掃活動



海上清掃船「ともえ丸」による清掃活動



「海の日」式典で標語コンクールの表彰式を開催



「美しい港を守る」標語をのぼり旗にして掲示